

発行：日本生理人類学会 生理人類士資格認定委員会

編集：川村広則（東北文化学園大学）

**生理人類士
認定制度の御案内**

日本生理人類学会は、人類の本質に基づく、健康で快適な環境の構築、評価、問題解決に携わり得る人材育成のため、西暦2000年に生理人類士認定制度を創設しました。これまで多くの方々が生理人類士資格を取得し各分野で活躍されています。当委員会は、これまでの取り組みを踏まえ、資格内容の一層の充実を目指しています。

本制度の資格には下記3種があります。

- (1) アメニティプランナー
(生理人類士1級)
- (2) アメニティコーディネーター
(生理人類士準1級)
- (3) アメニティスペシャリスト
(生理人類士2級)

(1) および (2) は日本生理人類学会員の内、前者は企業や大学等において豊富な実績のある方々を、後者は現在御活躍中の方々を対象としています。また (3) は本学会への所属は問わず、大学、短期大学等の学生あるいは社会人など、広く対象としています。

巻頭言

船津美智子（福岡女学院大学）

『生理人類士』の資格の勉強で何を得ましたか？

「この資格はどんな資格ですか?」、「何か役に立つのですか?」とよく聞かれます。まず、どんな資格であるかはテキストの“生理人類の沿革”を読んで下さいと伝えます。

次に「何の役に立つのでしょうか?」についてです。

図書館に勤めている2級を取得者の卒業生が久しぶりに研究室を訪ねて来ました。児童図書の係りで、どうしたら児童がたくさんの本に出会えて楽しめるか、日々考えているとのこと。児童の視野、本の並べ方、読む姿勢など生理人類学の視点から身近な環境を考えることができたことが役に立ったと言います。結果は、児童の年齢別に動線を考えて身長別に視野を測り、本の配置を決めたことが本の選別を容易にすることに効果があったということでした。

生理人類士の資格取得までには難しい?テキストを読み、演習問題を解き、今まで知らなかった専門用語にたくさん触れ、それを知ったことで視野が広がったことを感じたのではないのでしょうか。生理人類学への探究心が湧き、次のステップへ進もうと考えている人もおられるかと思えます。

2014年迄に約1500名の資格取得者の先輩方が多方面でご活躍されておられます。先輩方の声を聴くことは大事です。これからも引き続き学んでいかれることを願っております。

2015年度 表彰者氏名**≪準1級≫**

阿部奈緒子（福岡女学院大学）、伊藤尚子（群馬大学） 以上2名

≪2級≫

大坂響（東北文化学園大学）、押谷理冴（金城学院大学）、
関口藍・矢野美奈子（武蔵野大学）、中澤季里（実践女子大学）、
中村菜穂子・浜美沙希（福岡女学院大学）、根本宏幸（西川産業株式会社）
以上8名

指定校認定申請要領

生理人類士指定校に認定されると、受験者には特典が与えられます。（指定校の認定を受けるには、カリキュラムにおいて、受験資格要件を満たす科目が開講されている必要があります。）

認定を申請される場合、下記①～③を封筒に入れ、「指定校認定申請書在中」と朱書きし、事務局へ郵送して下さい。当委員会では速やかに審査を行い、結果についてお知らせします。なお、デジタル化した文書の送信による申請も可とします。手続その他において不明な点があれば、事務局に照会して下さい。

①指定校認定申請書（様式 B-1※）

代表者の署名と押印を必要とします。代表者には各教育機関の事情に応じて適切な人物を充てて下さい。なお、指定校責任者は代表者となることができます。

指定校責任者の役割は、受験者の統括、試験問題の管理、試験の実施、試験監督等です（認定制度規程※参照）。

②資格要件に関わる開講科目一覧表（様式 B-2※）

生理人類士準1級および2級における受験資格要件に該当する、開講されている科目のリストを作成してください。単位数は各教育機関の学則に準じるものとします。

不明な場合、事務局に照会して下さい。なお、一人の指定校責任者の下、複数の学科あるいは専攻をまとめて申請することができます。その場合、学科あるいは専攻ごとに書類（様式 B-2※）を作成して下さい。

③返信用切手（120円）

※学会ホームページにてダウンロード出来ます。

指定校責任者挨拶

泉 明宏（武蔵野大学）

『人間科学として』

武蔵野大学では、毎年数十名の学生が生理人類士として認定をされており、これまでの累計では700名近くとなりました。多くは人間科学部人間科学科の学生ですが、通信教育部からも例年多数の受験者がおります。

人間科学科の定員は180名で、人間の心理・生命・社会行動などの知識に依拠した、総合的な人間理解力を身につけることを目標として教育をおこなっています。学問領域としては、心理学を中心として、社会学、哲学、生命科学など多様な領域をカバーしています。全体に占める生理人類学に直接関連した学習の割合は必ずしも大きくありませんが、生理人類学の授業が2年生の必修科目となっており、この授業が受験を考えるきっかけとなっています。

多くの学生は心理学に関心を持って入学してきており、いわゆる文系です。生物学に関する基礎知識が余り無いところから学び始めることは大変な面もありますが、ヒトの心身の生物学的基盤について新鮮さをもって学習しているように感じます。

今後、資格認定に関心を持つ学生が増加すること、特に上位資格に挑戦する学生が現れることを期待しています。そのためには、生物学的観点から人間の心理や社会を見ることの面白さや、生理人類学が人間科学の他領域の学びにどのように結びつくのかをアピールしていくことが大切ではないかと考えています。

生理人類士 2015 年度資格認定者

《準1級》

古澤孝行（武蔵野大学）、阿部奈緒子（福岡女学院大学）、石田ゆき乃・伊藤尚子・堀麻衣（群馬大学）以上5名

《2級》

矢野美奈子・加藤香・加藤恵美子・高橋久仁子・黒田佳代・三木聖子・大神麻結・原紗弓・足立彩恵・愛敬美菜子・入江理紗・澤田知美・関口藍・前林健児・岡董子・三藤好美・洪澤康介（武蔵野大学）、小野真理子・小林由果・小室紋穂・中澤季里・根本茉実・橋本美佳・早瀬優穂・三杭由佳・柳ひかり（実践女子大学）、根本宏幸・山田志奈乃・杉原桃菜・池田夏美・中江澄恵（西川産業株式会社）、稲永彩乃・内野真那・小椋ちひろ・小黒伽菜・澤田佳代子・添田恵衣・富田萌絵・永井智美・中村菜穂子・西嶋真由・浜美沙希・樋口楓・福岡佳那子・宮嶋優璃花・向井日奈子・笠華菜（福岡女学院大学）、押谷理冴・榊原早耶香（金城学院大学）、江口仁也・大坂響・門脇博斗・峯田侑弥・宮畑茜音・舘優太（東北文化学園大学）以上55名

生理人類士の声

生理人類士準1級

阿部奈緒子さん（福岡女学院大学心理学科）

生理人類士準1級を受験して

前回、2級を受験し、合格することができたため、今回準1級を受験しました。2級では講義等でふれた内容が試験対策で手助けになりましたが、準1級の内容は専門性の高い内容が大半を占めていたため、対策をしていく中で苦勞する点が多かったです。生理人類学にかかわる書籍を読むことで、対策を進めることができました。

生理人類学を学んでいく中で、今日、私たちを取り巻く生活環境は便利になっていく中で、その便利さによって、人の環境適応能力の低下、身体機能の異常を引き起こしかねないということを知ることができました。

今回無事に準1級に合格することができたので、今回得た知識を生かして、人にとっての心理的、生理的快適性についてこれからも考えていきたいと思っています。

伊藤尚子さん（群馬大学教育学部）

生理人類士試験を通して

私は現在、教育学部に在籍しており、家政学を専攻しています。大学に入学するまで生理人類学という言葉も知らず、初めて聞いた時には、なんだか堅苦しい学問という印象を受けました。しかし、衣食住を中心にヒトの身体や心の働きが、私たちの身近な環境の快適性をデザインする生理人類学と密接に関係していることを学びました。家政学との接点も多く、徐々におもしろそうな学問であることがわかりました。

今回、生理人類士の受験をきっかけに、これまでに学んだ家政学の知識の定着と視野の広がりを感じています。来春から教員になりますが、今後の学校教育の現場でも子どもたちが健康に、快適に、そして感性豊かに暮らすための一手段として活かしていけたらと思います。

生理人類士2級

矢野美奈子さん（武蔵野大学通信教育部）

幅広い分野に及ぶ生理人類学に、私は知的好奇心をくすぐられ楽しく学ぶことができました。これは、教科書の中だけの勉強ではなく生活に直結した学問であり、とてもやりがいを感じました。生理人類学を学ぶことによって、生活環境の改善点を見出す力や視点が磨かれ、その能力は、何気ない日常生活のあらゆるところに活かされていくと思います。

生理人類士2級合格は、単に資格を取得したというだけでなく、人間と環境との関係性を考え、快適性を追求する力の第1歩を手に入れたという感じです。

これからますます磨きをかけ、人間の本来持っている能力を活かしながら環境改善に取り組むことで、さまざまな問題を解決していく力を、生理人類士として発揮していきたいと思っています。

生理人類士2級

関口藍さん（武蔵野大学人間科学部）

生理人類士試験を通して

2年生になり受けた生理人類学の最初の講義で生理人類士についての説明がありましたが、その時はあまり関心がありませんでした。しかし、今まで当たり前だと感じていた人間の身体の生理現象など身近なことを題材としている講義内容にどんどん惹かれていき、興味のある分野で資格を取るとは自分の強みになると考え試験を受けることにしました。

試験のための事前講座では、生理人類学の講義で学んだことを掘り下げ理解を深めながら重要な点を押さえることができたので、疑問や不明な箇所を抱えることなく試験に臨めました。覚えることがたくさんあり不安もありましたが、楽しんで勉強でき、自信を持つことにも繋がったのでとても良い経験になりました。

橋本美佳さん（実践女子大学生生活環境学科）

私は大学で「人が快適に、かつ豊かに暮らすことのできる環境」とはどのようなものかという疑問を常に持ち、学んでいます。生理人類学はこのような環境を目指すのに必要不可欠な分野であると思い、生理人類士2級を受験しました。

生理人類学は人類の歴史、文化にも及ぶ想像以上の広範囲なものであった為、焦りをもちながらの学習でした。しかし、学ぶ中でこの学問があらゆる分野で活かされていることがわかり、焦りはいつしか消え、新しいことを学ぶことに対する快感を得ながらの学習となりました。

そしてこの度、生理人類士2級の資格を取得することができました。今回の行った学習から得た知識を日常生活の中でも活かし、今後も生理人類学の知識を深めたいです。

杉原桃菜さん（西川産業株式会社）

「生理人類士を受験してみないか？」と最初に声を掛けて頂いたときは、一体何を勉強したら良いのだろう？難しそう…と感じたのが正直な感想でした。テキストを開いてみると、人類の起源・ヒトの感覚・生活環境など幅広い内容と専門用語が並んでいました。根気強く読み解くうちに身近な生理現象や快適さの感じ方について、「そういう仕組みだったのか！」と納得でき、自分自身の身体について客観的に理解できました。

私は現在、寝具メーカーにてお客様へ寝具の選び方や睡眠の重要性などを伝えたり、販売員の方に寝具の商品知識研修を行っています。

今後は、生理人類士を通じて得た知識を活かし、より専門的でわかりやすいアドバイスができるよう務めていきたいと思っています。

生理人類士 2級

中村菜穂子さん（福岡女学院大学心理学科）

アメニティスペシャリストを受験して

大学の心理学科に在籍し初めて「生理人類学」という言葉を聞きました。マラリアに抵抗する鎌型赤血球、時差ボケの克服方法などの話題に興味は深まりました。学びの中で、ヒトが環境に適応しながら進化を遂げてきたことにヒトの逞しさ、しなやかさ、神秘さを感じ、そして今後も変化し得るあらゆる環境に適応し、快適性を追求し続けるであろうヒトの未来に希望を抱かずにはいられません。

私は対人援助をライフワークにしたいと考えていますが、心理学的視点だけでなく、環境やアダプタビリティといった生理人類学的視点が活かせるのではないかと確信しています。

アメニティスペシャリスト資格取得を機に対人援助の現場においてもその汎用性を高めていきたいと考えています。

浜美沙希さん（福岡女学院大学心理学科）

生理人類学を学んで

私が生理人類学という学問に出会ったのは大学生になってからです。

アメニティというと最初に頭に思い浮かべるのはホテルに泊まると必ずといっていいほど置いてある歯ブラシや綿棒といったものではないでしょうか。私もそんな感じで深く考えたことはありませんでした。しかし、生理人類学というものを学んでいくうちに環境や生体リズムや睡眠など、人間が生きていくうえで欠かせないことを深く知ることができ、とても興味が湧いてきました。そしてもっと多くの人がこの学問を学ぶことで生活環境などを改善し、より快適な環境を作っていけるのではないかと考えました。

環境はこの先も変化していくと思います。その中で人間がどう適応していくのか、とても興味深いです。

樋口楓さん（福岡女学院大学心理学科）

試験を受けて

私は、大学に入って初めて「生理人類学」という学問があることを知り、受講してみようと思いました。受講した始めのほうは、難しいと感じていました。しかし、自分でも知らなかった身体の仕組みなどを学んでいくうちに「生理人類学」に興味を持ちました。

また、より快適に過ごすための環境を作る方法を学び、自分の生活にも役立つ学問だと感じました。

資格取得のための勉強は大変でしたが、睡眠や体温調節など勉強するうちにもっと学びたいと思うようになりました。今回受験したのは、生理人類士2級だったので、準1級を取得できるように生理人類学について、もっと学びを深めたいと思いました。そして、学んだことを今後の自分の生活にも活かしていきたいと思います。

押谷理冴さん（金城学院大学環境デザイン学科）

からだにやさしい環境づくり

生理人類士資格は、「あらゆる人が暮らしやすい生活環境の提案・アドバイスを行うことのできる資格」とあり、大学で学んだ多くの授業内容と関係しており、学んだことを資格として形にできると思い資格取得を目指しました。

そして勉強を始めると、人間の構造から人間を取り巻く環境まで人に関わるさまざまな知識の内容で構成されており、日々の日常生活との関わりも多く、納得したり新たに発見することが出来たりと、楽しく学ぶことができました。

これからも、この資格を取得するために学んだことを日々の日常生活から活かせるところを見つけていき、あらゆる人々のからだにやさしい環境づくりを追求できればと考えています。

大坂響さん（東北文化学園大学建築環境学科）

生理人類士試験をうけて

私は、建築環境学を学ぶ傍ら、大学2年生になり生理人類学について学びました。

大学では生理人類学の基礎を学ぶ「人の感覚・生理と環境」を必修科目として学ぶことができました。試験対策講義の内容は、通常講義より専門的な用語や細かな部分まであるので大変でした。しかし試験対策講義が進むにつれて、人の身体の構造や感覚、衣食住や音環境に関する内容もあり、私たちの学科とも関わりが深いことを知ることができました。

試験に合格するために、約2ヶ月間は集中的に勉強を続けました。勉強をしていくうち、人のあらゆる機能のすごさにも気づかされました。そして、合格という言葉聞いたときはとてもうれしかったです。

これからはこの資格を通して学んだことを活かしていければいいと考えています。

2016年度資格認定試験

《申込期間》

2016年9月17日（土）～10月7日（金）

《試験日》

準1級・2級：I期 2016年11月26日（土）

II期 2016年12月3日（土）

1級：別途相談の上決定

日本生理人類学会資格事務局

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5
アカデミーセンター

T E L : 03-5389-6218

e-mail: jsppa-post@bunken.co.jp